

「JENESYS2020」

2021 年度中国青年公益事業交流団オンライン交流（テーマ:環境保護）の記録

1. オンライン交流概要

【目的】本交流は、中国の政府機関や企業、大学で、さまざまな分野の公益事業・ボランティアに従事する青年が、日本の同分野の関係者とテーマ別にオンラインで交流活動を行うもので、本プログラムは「環境保護」をテーマとし、世界の共通課題である気候変動や SDG s への日本の取り組みについて理解を深めるとともに、日中両国の友好促進を図ることを目的として実施しました。

【参加者】 1 回目 中国側:公益事業・ボランティアに従事する大学生等 32 名

日本側: 環境省 1 名

2 回目 中国側:公益事業・ボランティアに従事する大学生等 31 名

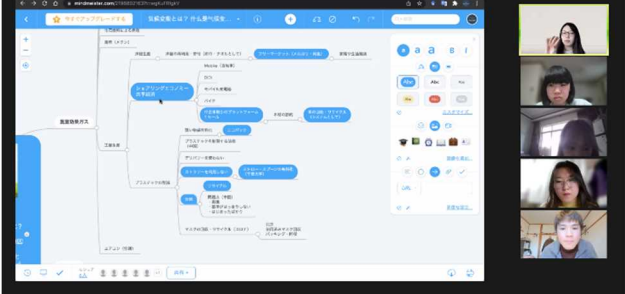
日本側:環境保護活動を行う大学生等 27 名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
1 回目 2022 年 2 月 21 日 東京都	【テーマ関連講義・質疑応答】 ①セミナー「日本における気候変動対策について」 講師：井上 直己 環境省 地球環境局 国際地球温暖化対策担当参事官補佐 ②質疑応答	中国側参加者は、日本における気候変動対策について、現在の気候危機の状況や国際的な対策への動き、カーボンニュートラルや地域循環共生圏の構成への取り組み、日本の国際的な支援などについて学びました。 また、「経済発展と CO2 削減はどうすれば両立できるか?」「真庭市の事例など、地方で様々な取り組みが行われているが、地方の取り組みに対して、環境省は何かインセンティブを与えているか?」「ソーラーパネル設置のため森林が破壊されることが起きている。どのような再生エネルギーがよいのか?」等、さまざまな質問があがりました。

		た。 (参加者：中国側 32 名、日本側 1 名)
2 回目 2022 年 2 月 28 日 東京都	【テーマ関連発表・意見交換】 ①日本大学生代表による 環境保護活動の活動事例の紹介 ②中国大学生代表による 環境保護活動の活動事例の紹介 ③グループディスカッション 6 グループに分かれ全体テーマ「気候変動問題に対し私たちができること」に基づき、各グループで下記の通り 1 つのトピックについて意見交換 ・「個人・仲間と一緒にできること」 …グループ 5、グループ 6 ・「地域と協力してできること」 …グループ 1、グループ 4 ・「日中間で協力してできること」 …グループ 2、グループ 3 ④ディスカッション内容の発表	日中双方の学生の代表が、自身が行っているさまざまな環境保護活動について紹介した後、6 グループに分かれてグループディスカッションを行いました。各グループ 1 つのトピックについて活発に意見を交わし、最後に、グループの代表者がディスカッションの内容を発表し、全員でその成果を共有しました。 日中双方の学生は、それぞれの立場からどのように気候変動問題解決にアプローチできるか、取り組みを進めることができるか、ディスカッションを通じて、さまざまな視点や考え方を互いに学び合い、より考えを深めることができました。 (参加者：中国側 31 名、日本側 27 名)

2. 記録写真

	
2022 年 2 月 21 日 【テーマ関連講義・質疑応答】 環境省によるセミナーでの質疑応答	2022 年 2 月 28 日 【テーマ関連発表・意見交換】 グループディスカッションでの活発な意見交換

3. 中国側参加者の感想（抜粋）

◆日本の同年代の人の環境保護に対する観点や活動を知ることができ、私たちの環境保護へ

の取組みや施策を別の視点から見つめることができました。

◆気候変動に関する日本の政策や、同年代の日本の学生が企画した校内や地域での活動について知り、中国との共通点や多くの相違点を見つけることができました。日本の活動は比較的規模が大きく、ごみ処理についてはプロセスが細かく整備されています。これは、日本では幼い頃から始まる環境保護の教育・意識づけと密接に関係しています。同様に、中国の政策環境の中で設定されたカーボンピークアウト・カーボンニュートラル政策、都市部や農村部における新エネルギーの活用、企業が打ち出している環境保護への取り組みに日本の学生は驚いていました。このような国際的なオンライン交流によって、高い交流意欲の中で互いに学び合うことができました。

◆専門家の講義を聞き、日本の大学生と共に、個人として、仲間として、環境のために何ができるかを話し合ったことは、本当に有意義なことでした。今までよく知らなかったことを学べたと同時に、環境保護教育の面でも日本は実に他をリードしていると感じました。環境保護は共に努力し、学び合い、手を取り合って進めていかなければなりません。

◆日本の多くの大学が環境保護に貢献していることを知り、環境保護に対する意識が高まり、今後の日本留学のための基礎づくりができました。

◆今回、日本の友人と環境保護や気候変動対策について意見を交わし、お互いに新しいことをたくさん学びました。例えば、私たちは日本のごみ分別が細かく厳しいことを知りましたが、日本の友人は中国のホテルでは使い捨てのアメニティグッズを使わないことができることを初めて知ったそうです。このほか、冷水で洗濯しても温水と同じくらいきれいになることなど、普段からできる環境保護の裏ワザをたくさん知りました。このような交流を通じて、両国の若者の友好を深め、共に地球環境を守っていければと思います。

4. 日本側参加者の感想（抜粋）

◆気候変動に対する日中協力という点では、私たち学生が出来ることから、企業や国単位での協力まで幅広く対応が可能であり、実際になにか行動を起こすことが何よりも重要だということを改めて感じました。また、私たちと同年代の人の中にも、実際に国境を越えた活動を行っている人もいるということを知り、私もなにか行動を起こす必要があると思いました。中国で行われている、日本にはまだないプログラムについても初めて知ることができたため、今後それらについてもっと関心や理解を深めていきたいと思います。

◆私たちは地域で協力してできることについて話し合いました。中国と日本で、「地域」の感覚が違うということに驚きました。中国や日本のそれぞれの地域・大学で行われた活動を出し合いましたが、周辺地域の学校への環境教育が、多く行われていたことが興味深かった

です。私たちと同じように小中学校へ環境教育をしている大学がいくつかありました。大学を地域のつながりの場にして、イベントなどを通して地域全体の環境意識を高めていくことが、私たち学生のできることだと思います。

◆今回のオンライン交流会では、多くのものを学んだ。ディスカッションの途中で出てくるアイディアは政策体制が反映されていたり、相手側の国家が今現在最も重要視しているものが見えてきて、聞いていて面白かった。(テクノロジーを駆使など) また、テーマはかなり広がったためいろんな話が聞けたが、更にテーマを絞り詳しく議論するというもの楽しかった。例えば、私のグループでは新エネルギーや電気自動車について興味関心が多い学生が多かったため、最後の時間は日中での違いや普及の現状、課題などを話し合った。私も新エネルギーや電気自動車には興味があったのもっときちんと調べておけばよかったと後悔する場面もいくつかあったが、ニュースからは理解できない中国側の現状を聞いて大変内容の濃いディスカッションになった。このような機会を設けて頂きありがとうございました。機会があればまた参加したいです。

◆中国に実際に住んでいる方と事例等を紹介し合ったことで、より実態に沿った意見交換ができたように感じた。ディスカッションの中で、中国ではシェアリングエコノミーに関する取り組み、日本ではゴミの分別やリサイクルに関する取り組みがそれぞれ進んでいると分かった。両国が違った強みを持つからこそ、互いに交流を深めて知識や技術を交換することが重要なのだと理解することができ、とても有意義な機会となった。

◆中国と日本は近いようで互いに互いのことをあまりよく知らないのだと感じました。中国の学生さんの発表の中で、アプリを開発したとありました。ゲーム感覚で環境問題に取り組むことができるアプリでした。中国はテクノロジーの発展がめざましく、日本も学ぶ点が多いと思います。オンラインでの交流ではありましたが、貴重な経験となりました。参加して良かったです。ありがとうございました。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

2月21日、28日、由中国宋庆龄基金会和日中友好会馆主办的以“环境保护”为主题的线上中日青年交流活动在中国宋庆龄青少年科技文化交流中心成功举办。21日下午，主办方邀请日本环境省地球环境局专家井上直己从气候危机、国际动向、日本国内环境对策三个方面进行讲座，来自中方32名青年志愿者代表参加活动。

講師の自己紹介

2001年 環境省入省

- ✓ 地球温暖化対策
- ✓ 国際交渉
- ✓ 環境アセスメント
- ✓ 法案の起草
 - 自動車排気ガス規制
 - 里地里山保全
 - 気候変動適応



(写真) 日経新聞



(井上直己进行讲座)

28 日下午，中日双方 60 余名大学生代表围绕“对于气候变化问题，作为大学生我们能做什么？”这一主题进行了深入的讨论。中日大学生代表分别介绍了开展环境保护的活动案例。日本千叶大学环境 ISO 学生委员会代表分享了在校园内积极推广回收塑料制品循环利用的经验以及与企业合作共同保护山川河流的经验；中国青年代表华北科技学院沙宇轩同学介绍了全球变暖影响，作为可持续发展行动者 Movers 的一员，他希望致力于向全球青年宣传可持续发展的理念，帮助每一位青年成长。

CHIBA UNIVERSITY プラスチックごみ削減活動 減少塑料垃圾活动

12 14

ミンティアケース回収
回収MINTIA薄荷糖果盒

コンタクトケース回収
回収隐形眼镜片盒





(日本千叶大学环境生委员会代 ISO 学表分享)



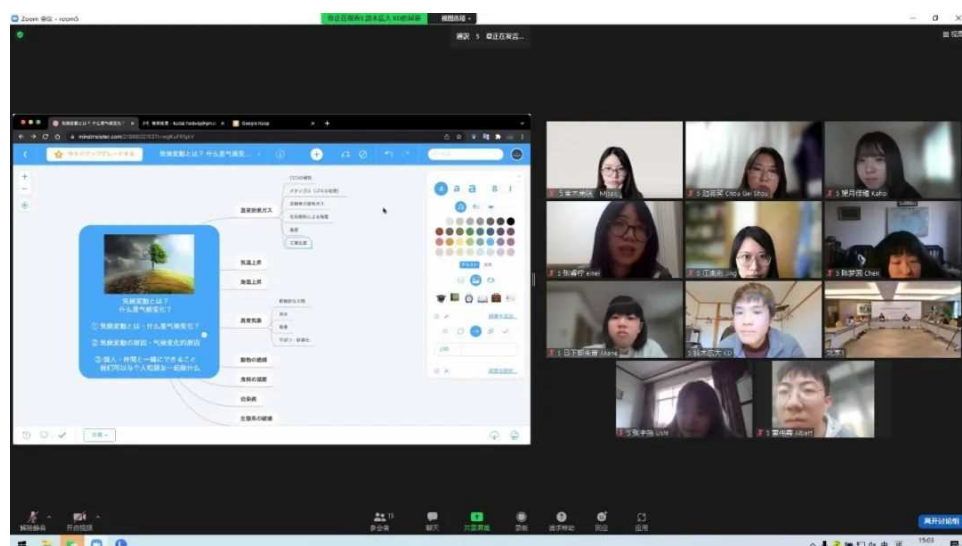
(中国青年志愿者华北科技学院学生沙宇轩分享)

随后，中日青年代表分为 6 组，围绕不同主题进行小组交流，活动现场气氛十分热烈，双方代表踊跃发言。

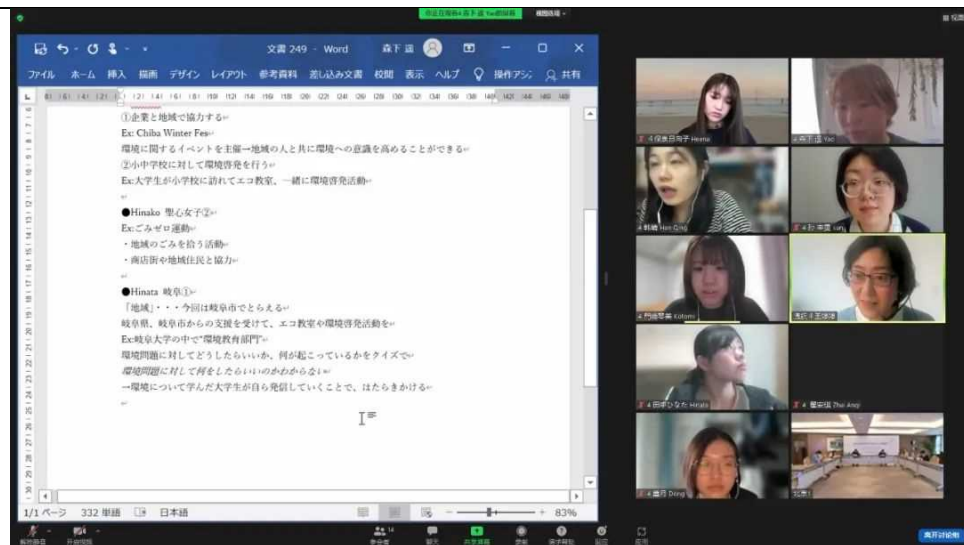
1 组和 4 组中日青年代表围绕“与地区合作能够做些什么事情”提出，要建立更好的信息管理平台，发布相关环境和气候相关信息。期望今后能发挥专业优势，与产业企业相结合，更好的保护环境。

2 组和 3 组中日青年代表围绕“中日合作能做的事情”提出，希望两国能签订海洋公约共同保护海洋，并开展基础设施合作，建立监测站，共享数据信息，一起努力保护海洋生态系统。

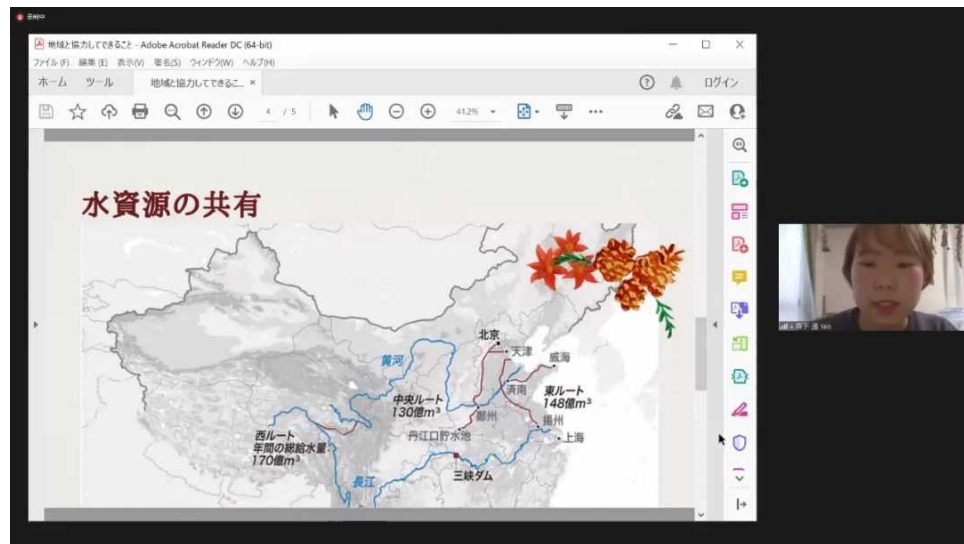
5 组和 6 组中日青年代表围绕“个人或伙伴一起能做的事情”提出，大家要相互提醒节约粮食、节约水电，住酒店不使用一次性洗漱用具，减少生活垃圾排放。中方青年们希望能够有机会进一步学习日方先进的垃圾分类管理方法。



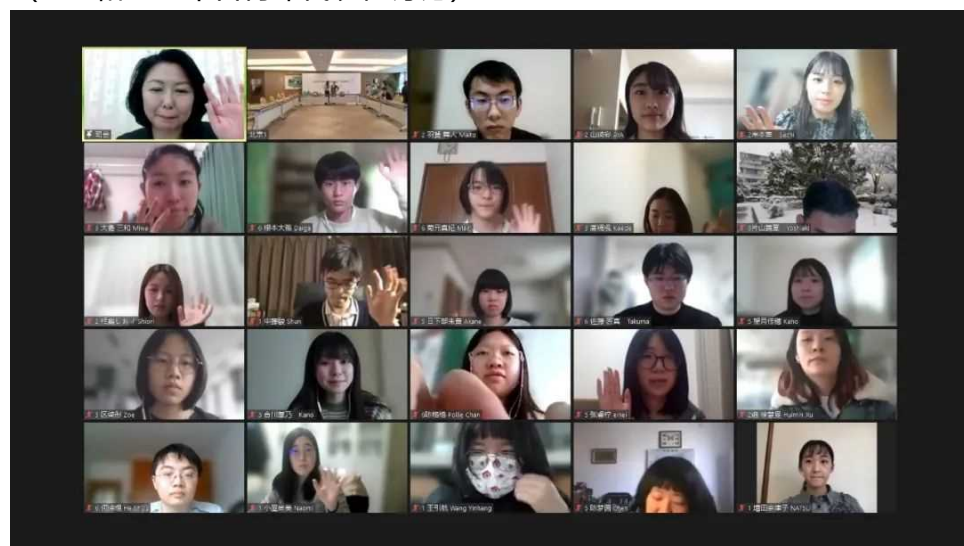
(1 组和 4 组中日青年代表在讨论)



(2 組和 3 組中日青年代表在讨论)



(5 組和 6 組中日青年代表在讨论)



(中日青年代表开展线上交流)

活动背景

2022 年 1 至 3 月中国宋庆龄基金会和日中友好会馆主办中日青年交流活动，聚焦“体育文化”“环境保护”和“志愿精神”3 个主题共举办 6 次线上交流活动，两国共计 200 余名优秀青年陆续参加活动。

2022 年 3 月 1 日（中国宋慶齡基金 HP）

2022 年中日青年が“環境保護”をテーマに交流活動を実施

実施団体名：公益財団法人日中友好会館